

ホタル探検隊情報 1



滝沢村のホタル

ホタルブクロが咲く頃、村内ではホタルの飛翔があちらこちらで見られます。

水辺に生息するホタルではゲンジボタルとヘイケボタルが、村内で確認されています。郊外の川沿いにはゲンジボタル、人里の水田や池や小川にはヘイケボタルが主に生息しています。

岩手山麓の湧き水など水に恵まれた滝沢村は、その名の通りホタルの里にふさわしい環境です。

ホタルにとっての良い生息環境には、エサとなる貝類が豊富にいる川や池で、蛹室をつくれる地面や産卵できるコケなどが生えた岸辺、光で交信できる暗い環境などが必要です。

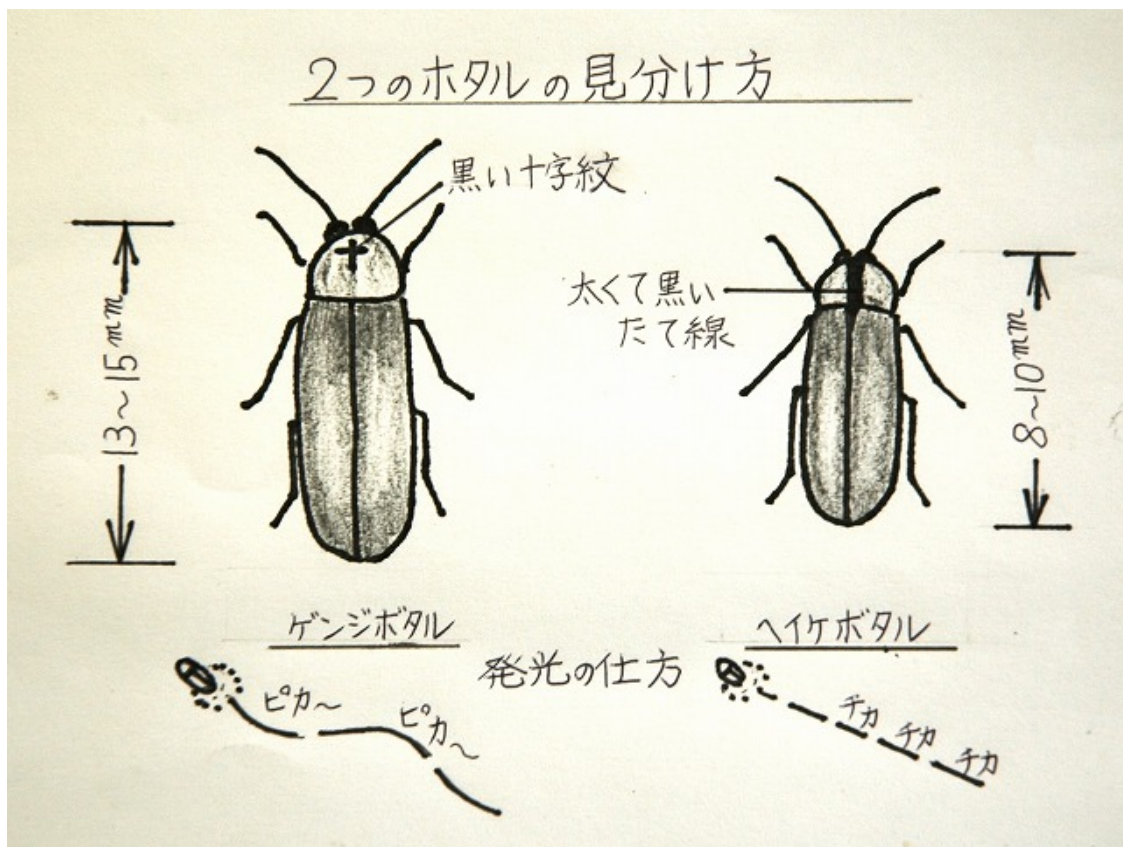
村内では、都市化による環境悪化が進む中で、月が丘地区や巣子地区の住宅地域の川では、住民によるホタルの保護活動が行われています。

農業地域や山麓には、まだ自然に近い状態でゲンジボタルの生息地が確認されているところもありますが、多くの商業地や住宅地では、「昔はホタルを見たが、最近は見ることがない」という状況になってきています。農薬の使用が少なくなり一時より復活しているという話もありますが、コンクリート護岸や側溝の工事などで発生地域はむしろ激減しています。

世界中で環境問題が大きな課題となっています。身近な自然をホタルという親しみやすい生き物を通して楽しみながら考えてみませんか。



ホタルブクロの花



ホタルの光跡



園)

ゲンジボタル(滝沢村大崎地内)

ヘイケボタル(小岩井農場まきば

点滅が早いヘイケボタルは、ゲンジボタルよりも光のスジが短く写ります。ホタルの光は意外に暗いので、感度を1600に設定して、バルブ撮影により2分露出でデジタルカメラで撮影しました。

ゲンジボタルの特徴

- ①赤い背中に十字の紋 ただし 無紋もある
- ②体長15mm~18mm
- ③長い周期でゆっくり点滅(2秒から4秒)
- ④繁殖時期は6月下旬から7月中旬
- ⑤川岸のコケに500個くらい産卵
- ⑥幼虫はカワニナという巻貝を食べる
- ⑦幼虫は10ヶ月から2年くらい水中で生活
- ⑧サナギとなった幼虫は50日ほどで成虫になる



ヘイケボタルの特徴

- ①赤い背中に太く黒いたて線がある
- ②体長10mm~8mm
- ③千カ千カとはやく点滅
- ④繁殖時期は6月下旬から8月上旬
- ⑤水辺のコケや草の根元に100個くらい産卵
約1ヶ月で孵化して幼虫になる
- ⑥幼虫はモ/アラガイやタニシなどを食べる
- ⑦幼虫で冬を越し翌年初夏に成虫になる
- ⑧幼虫はサナギになって50日ほどで成虫になる

